平成 25 年 2 月 16 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 25 年度第 1 回

学びの縁

先程、猪瀬理事長より委嘱状をお渡ししました。新役員をお引受け戴いた方に感謝を致します。有難うございます。新体制に向けて少し感じたことを申します。

岡本代表幹事が謙虚に、新人のような挨拶をされました。岡本代表幹事には中斎塾フォーラム発足にあたって東京の代表幹事を引き受けて戴きました。中斎塾フォーラムの前身は悟道会や亦楽会といった学びの会でございまして、亦楽会の代表もされておりました。

したがって新体制発足に関しては、昨日今日に始まったものではなくて、過去の色々な経験が積み重なって現在に繋がり、そして次の世代へ繋がっていくのだとお考えください。そしてその学びの輪というのは、私が始めたというだけではありません。私は石川梅次郎先生に教えて戴き、梅次郎先生は二松学舎という中で三島中洲・那智佐伝に流れる学びの縁がずっと続いています。ですから我々の学びは、大まかに辿ると、山田方谷先生がいてその師である佐藤一斎先生がおられる、そのあたりから見ればよろしいかと思っています。

佐藤一斎をベースにして考えると、佐藤一斎が教えた孫娘のコトという人は、吉田茂さんを仕込んだ。ですから吉田茂さんは佐藤一斎直伝で教えられたわけです。その吉田茂さんを意識して、今の麻生副総理が政治家としての動きをしています。たまたま今朝の新聞を見ましたら、閣僚の資産公開の記事がありました。麻生さんは「親から戴いたものばかりで、私が苦労して稼いだわけはない。親がちゃんと相続させてくれたのだ」といっていましたが、こういうふうに受け取っているのかと思いました。鳩山さん兄弟も、お母様が亡くなりましたから相続税が大変でしょうね。

私が今お話しているのは、学びの縁というものを柱にしています。話があちこちに飛びますが、皆さんがお聞きになる時には、本質・大局・歴史の 3 つの点で見て戴いて、柱になるものは何かを考えて下さい。枝葉はポンポンと飛んでいきますが、一つの柱に集約できます。意識して集約して考える癖を持っていないと、話がまとまりません。

麻生さん、鳩山さんの話を致しましたが、二代目・三代目が政治家を受け継いでいるのはどうなのだろうか？ という考えが頭をよぎると思います。そうすると次の選挙の投票行動が少しは変わるのではないか・・・という思いが若干ありますが、あまり細かくは申しません。

佐藤一斎から現在につながる中で異彩を放っているのは安岡正篤先生です。ちなみに安

岡正篤先生の学びに関しては、「安岡教学」という言い方をします。全国に「郷学会」があります。群馬にも群馬郷学会がありますが、この場合は「郷学」という文字です。

一昨日、安岡教学の御縁で群馬県の副知事にお会いしました。安岡教学を一所懸命勉強しておられる方です。安岡正泰顧問が銀座でやっておられる活学塾に熱心に通っておられたそうで、安岡顧問から「群馬に赴任したので、そのうち会って下さい」と言われておりまして、一時間くらい話を致しました。

また先月は、群馬郷学会の御縁で渋川市の市長さんにもお会いしました。渋川市長さんは現在、自治体のトップとして日本全国に先駆けて、農薬まみれでない野菜を学校給食に導入する取り組みをしています。きっかけは、本日ご紹介する本です。渋川市長さんは市内の子供達の心が荒れてきているということで、その理由を調べるうちに、『ネオニコチノイドが日本を脅かす』（水野玲子著　七つ森書館）という本に出会ったそうです。そして何のことはない、子供たちの心が荒れてきた原因は、児童が農薬まみれの野菜を食べさせられているからだということが分かったのだそうです。

学びというのは、まず最初に「思う」ことが肝心です。市長さんは子供たちに農薬まみれでない給食を食べさせたいと思った。思ったからスタートしたわけです。たまたま行政のトップに就いたから、その思いを実行に移せる環境にあった。そして実行した事は、農地を手当てし、手伝ってもらう農家の方々と手を結んだ。次に、農薬メーカーへの働きかけをしました。農薬メーカーは人体に有害な農薬を作る事は慣れているが、人体に有益な農薬を作る事は慣れていません。ならばせめて人体に有害でない農薬を開発し、それを提供してもらうという契約をしたそうです。

市長さんは「少し時間をおけば、渋川市では人体に有害でない農薬を使って作った野菜を子供たちに食べさせることが出来る。ご覧戴きたい」と言っておられました。私もそれについては、全面的に協力したいと思っています。木内孝顧問も似たような動きを全国的にやっておられますから、連携しましょうという話になりました。

このように学びの縁ということで、広がり・関わり合いを持つ人が増えてきます。そしてその人の度量が大きければ大きいほど、色々な知恵を習得できます。その時は素直でなければいけません。

私共が学んでいる学びの縁（学縁）は、日本の明治維新を成功させたものの考え方が根幹に入っています。出だしは佐藤一斎です。それ以降の動き方をみていると、それぞれの方がそれぞれの立場において血肉にしています。例えば、西郷隆盛は佐藤一斎の書いたものを自分で書き写して、肌身離さず持ち歩いて勉強していました。

ちなみに西郷隆盛は「子孫に美田を残さず」と語ったと言われていますが、本当のところは若干違うように感じます。奄美大島に隠遁していた時に愛加那という島妻を娶っていますが、その家族には、田んぼと畑を一反ずつと住居を新築して残していますから、美田とは言えませんが、普通の田畑は残しました。

西郷隆盛は確かに素晴らしい人物ですが、我々が学ぶ時は、事実は事実通り調べておかなければいけないと思います。西郷隆盛には奥さんらしき人も含めて、女性が 4 人いたと云います。最初に結婚した妻すがは、西郷隆盛が藩主に随行して江戸に行ってしまったので、自ら離れてゆきました。そして愛加那という藩公認の島妻です。愛加那には二人子供が生まれて、男の子は後の京都市長になっています。二度目の奥さんは西郷隆盛の銅像を見て「私の主人はこんな顔ではない」と言った、糸という女性です。他に、奥さんではありませんが、台湾に行っている若い時に現地の娘さんと一緒に暮らして、子供が一人生まれました。その女性は西郷隆盛が蒸発して帰らなかったので、焦がれ死にしているようです。ここらへんも皆さんの持っているイメージと違っていると思います。

ものを学ぶ時に、本質・大局・歴史という観点のほかに、「ひらめき」というものが非常に大きな要素を持ちます。ノーベル賞を貰った方々の話を聞いても、受賞するに至ったきっかけは「ひらめき」と答える方が多い。

「ひらめき」と「悟り」は同じだと思います。どういう時にひらめくかというと、例えば散歩している時にひらめいたとか、一所懸命勉強している時にはひらめかないで、それから離れて違う事をやっている時にひらめく場合が多いようです。ひらめくには、木内信胤先生曰く、「なるべく沢山のものを見なさい。自分自身の本業と関係ないものと出会う努力をしなさい。よく観察しなさい。」つまり、沢山の人に会う。沢山の本を読む。色々な所に出掛ける。自分が本来追い求めているものとはまるで違う異体験をどんどんしなさい。そうするとそれらが貯まってゆき、何かの触媒に当って、ポンとひらめく。それが「悟る」です。それで人物が出来る・・・ということになります。

ただひたすら一所懸命ひとつのものだけやっていたのでは、ひらめきは生まれません。出来るだけ沢山のものに触れることが必要です。ですから、色々な実例を今申し上げたわけです。

恒例の質問

今年に入って、ひと月半経ちました。昨日一日と、今年に入ってからとお考えください。

○　昨日一日、嘘をつかなかった方？　今年に入って、比較的嘘をつかなかった方？

○　昨日一日、良い日だったと思う方？　今年に入って、比較的良い日が多かったと思う方？

○　昨日一日、有難うと言い・有難うと言われた方？　今年に入って、比較的有難うと言い・有難うと言われることが多かった方？

○　昨日一日、健康法を実践した方？　今年に入って、比較的健康法をやっていたという方？

○　昨夜寝る時に、一日を思い出して寝た方？

これは渋澤栄一さんの眠り方です。渋澤栄一さんは寝る時に、＜今日は誰に会って・ど

ういう約束をしたか＞ずっと思い出してから寝るので、それが渋澤老人の記憶術に繋がり、色々な行動の源泉になったと書き残しています。ですから皆さんも夜寝る時に、＜今日は誰に会ったか＞＜どういう約束をしたか＞を思い出して寝るような癖をつけると、非常に良い人生が送れるとお考えください。それは幸せを引き寄せる法則と直結しています。

論語解説

【八】顔淵　死す。子曰く、噫、天　予を喪せり。天　予を喪せりと。

顔淵が死んだ。孔子がため息をついて、「天が私を滅ぼしたのだ」と嘆いた。

顔淵は孔子の一番弟子で、３２歳の若さで亡くなっています。

自分の後継者を先にあの世にやるとは何事だ。これは天が私を必要としなくなった、その証ではないか・・・と、天に向かって矢を射かけたいという感じの文章です。

顔淵と孔子のような師弟関係はありますね。会社でもそうですが、後継者と目した人間が先に死んでしまう。〝次の人を見つけるさ〟と軽く考えられる場合は良いのですが、どうしてもこの男でなければ私の後は引き継げないと思っていた人間が死んでしまうと、こういう台詞になるのでしょう。それくらいの深い信頼関係の後継者がいるかいないか…そう置きかえてみるとよろしいでしょう。

論語を学ぶ時は、自分自身の身の周り、世の中の出来事、現実の世界に置きかえて読まなければ意味がないと思っています。

【九】顔淵　死す。子　之を哭して慟す。従者曰く、子　慟せりと。曰く、慟すること有りしか。夫の人の為に慟するに非ずして、誰が為にかせんと。

顔淵が死んだ時に、孔子が慟哭した。従者が、「（悲しみのあまり狂ってしまうほど）先生は泣き崩れられたのですね」と聞いた。

孔子が言うには、「彼の為に泣かずして、誰が死んだ時に泣くのか。私の涙はこういう時のためにあるのだ」と答えた。

嘆き悲しむ者も悲しまれる者も、深い絆があると感じます。

仏教に輪廻転生という考え方があります。マヤ文化に触れると、時間軸が過去・現在・未来と一本で繋がっていくという考え方ではなくて、過去・現在・未来がぐるぐる廻っています。面白い考え方だと思います。同じ魂が何度も何度も生まれ変わって、違う形で付き合う。そうすると過去世では夫婦であったり、未来世では兄弟であったりと、今の常識

では考えられないような付き合い方があります。そういう人同士が出会った場合に、このような嘆き方をするのではないかと感じます。
貝塚論語の中では、孔子と顔回は同性愛ではないかという表現が出ています。学者がそういうことを言うのは珍しいので、眼にとまりました。

【一〇】顔淵　死す。門人　厚く之を葬らんと欲す。子曰く、不可なりと。門人　厚く之を葬る。子曰く、回や　予を視ること、猶　父のごとくす。予　視ること猶　子のごとくするを得ず。我に非ざるなり。夫の二三子なりと。

顔淵が死んだ時、弟子達が盛大な葬儀をしたいと言ったので、孔子が駄目だと答えた。
弟子達は孔子の意向を理解しないで立派な葬儀をした。
孔子が言うには、顔回は私を父のように見てくれた。今回のような事があると、私は顔回を自分の子供のようには見られない。なぜならば、鯉（孔子の子供）を亡くした時には礼にかなった粗末な葬式を出した。しかるに私の意向を誤解した弟子たちが、勝手に手厚い葬儀を出した。これはけしからん。困った弟子たちだ。

現代に照らし合わせて考えましょう。
胃に穴を開けてチューブで栄養を取り入れる遺漏という処置がありますが、昨日、遺漏をしている方の所にお見舞いに行きました。考えてみると、大体の人は死ぬ時はチューブ人間にはなりたくないと言います。親が植物人間状態であっても、子供は手厚い治療を望むようです。医者もその方が利益が上がるから、血管や鼻、口、胃、肛門と至る所にチューブを入れて、死なないようにする。人の末期を看取る時、医者の損得勘定、子供の考え方、亡くなる本人の考え方、これらが錯綜します。そういうものに置きかえて、この論語を考えるとよろしいでしょう。誰の氣持ちを尊重すればよいのか…。いずれにしても本人の氣持ちを尊重してもらうためには、遺言を残すとか、はっきりわかる形にしておく必要があると思います。

【一一】季路　鬼神に事えんことを問う。子曰く、未だ人に事うることを能わず、焉んぞ能く鬼に事えんと。敢て死を問うと。曰く、未だ生を知らず、焉んぞ死を知らんと。

鬼神は祖先の霊、或いは山川の神と捉えてください。
季路が、「先祖の霊にお仕えする時には、どうしたらよいでしょうか」と聞きました。
孔子が言うには、「まだ私は誠意を尽くして人様に仕えたことはない。人としてきちんとお仕え出来ないのに、どうして先祖の霊に敬う気持ちで誠を尽くせるものだろうか。」
季路がさらに死について尋ねました。
孔子は答えて「私はまだ生きていることの意味を知らない。どうして死について話がで

きようか」

前に申し上げましたが、木内信胤先生は御子息（木内孝顧問のお兄様）を亡くされておりますが、息子さんが亡くなる前に、徹夜で死後の世界について語り明かしたそうです。信胤先生は、「それで本人も納得して逝ってくれたように感じる」と言っておられました。

本質・大局・歴史の観点から、今の日本をどう見るか

去年は新聞・テレビ・ネット等のマスコミを見る時に、民主党の打つ無様な手・国債・自然災害の視点で見ると申しました。

今は、自民党・公明党の打つ手を見る必要があります。アベノミクスなるものが、わずか 2 か月くらいで急激に日本を変えています。大きな会社の収益は急激に良くなっているように報道されています。また、外国が日本を見る見方がガラリと変わりました。今迄どうにもならないくらい弱体化した国が、急激に手ごわくなって来たと見られ始めています。トップが変わるだけで、これだけ変わるものかと思います。

今日のテレビでは、G20 に出発する麻生さんのぶら下がり取材を放送していました。「しっかりと日本の立場を言って来ます。アベノミクスは為替相場操作ではなくて、デフレ脱出でやっている」と言っていましたが、麻生さんの腹の中は、＜日銀が無能だからデフレデフレで国民を苦しめていた。我々はデフレ対策で汲々として、何とか株高円安の方向に進まないようにしている。しかるに他の国々は、自分達だけ対策をとって苦しまないできた。日本が遅ればせながら対策を講じたならば、自分達の利益が減るからと文句を付けようとしている。それは筋違いだ＞と言いたいのでしょう。ですから麻生さんは結構面白い主張をして来るだろうと感じました。テレビは表情を大写しにします。特に瞳をよく見ていると分かります。

新聞を読む時に、二通りの読み方があります。

一つは、この新聞はどのポジションで書いているか氣にしてください。

1 月 19 日、尖閣沖で海上自衛隊のヘリコプターに中国がレーダーを照射しました。30 日には、護衛艦に照射しました。アメリカはかつて、そういうことをやられた時には空爆しています。国際常識としては、ロックオンされたならば空爆をしてもよいという暗黙の了解があるわけです。日本はまだ法律も整っていませんから、何もしません。日本をなめきって、そういうことをしているのです。また、2 月 7 日の北方領土の日には、ロシアが領空侵犯をしています。

2 月 9 日の朝日新聞では、安倍首相が「日本の主権や国益が侵害される時は、しっかりと我々の考え方を述べていく」と発言したのに対し、朝日新聞の書き方は、果たして今のや

り方で良いのか…と疑問を投げかけていました。

もう一つは、本質・大局・歴史で見る見方です。

本質論で考えると、これは国家の弱体化をあからさまに公表していると読み解くとよろしいでしょう。

大局で考えると、例えば、2 月 7 日の日経新聞に「北朝鮮の長距離ミサイルはアメリカ本土にも届く能力を持った。アメリカのパネッタ国防長官は 9 月に日本に弾道ミサイルを探知する早期警戒レーダーをもう一つ置きたいと申し入れた」という記事がありました。これは何を意味するかというと、中国とロシアはアメリカ本土を直接核爆弾で攻撃する能力を持っている。それに北朝鮮が加わる。アメリカ国民から見ると、日本人はこういう危機的距離になっているにもかかわらず全く騒がない。何と呑気な国民なのかと思われています。日本人がやっていることは、「日本船籍の船に武装警備員を載せる法案（日本船舶警備特別措置法案）を国土交通省が国会に提出する方針を固めた」(2/4 上毛新聞）とあります。日本の船にライフル等を持ったガードマンを乗せてもよい、又は乗せなければ危ない、という法律を出すということですから、ようやくそういう所まで来たかと感じます。但し、ライフル等の所持使用については正当防衛、船員に危険が生じた場合の緊急時に限るという条件付きです。更に日本の警備会社は認めないのだそうです。以前ブラジルに行った時には、銀行で警備にあたるガードマンは、３２口径のピストルを所持するよう契約書に書いてありました。日本もそのうちに武装している警備会社が生まれるに決まっていると思っています。そういう方向に日本の国は今どんどん進んでいます。ですから自分自身を守る護身術や護身用具はだんだん盛んになるでしょう。少なくとも皆さんが生きている間に起きると思っています。

今お話しているのは大局ですから、大局は色々な国の立場を新聞・ネット・テレビで見る。特にテレビの場合は先程申しましたように、表情をよく見てください。尖閣沖のレーダー照射について会見した中国外務省の女性広報官は、「我々は知らなかった。報道で知った」と説明しましたが、その後の会見では、(我々は真実を話してはいけないと規制されていたので）日本がねつ造したという言い方をした」と言いました。その時の目がきょろきょろと泳いで、いかにも私は嘘を言っているという表情でした。ですから表情、特に目を意識してください。河井継之助は、眼（瞳）を見るとその人物の一生が見えると語っていました。そして河井継之助の人物評価は神のごとく当った、ということが記録に残っています。論語では「視・観・察」という方法で人物を観察すると紹介されています。

歴史で考えましょう。税金を過剰にかける国は潰れると前から申し上げていますが、日本国は次から次へ、よく税金をかけるものだと思います。終戦直後とまではいきませんが、今度は富裕層に対して税金をかけるそうです。4850 万人の納税者がいるそうですが、富裕層は 0.1%だそうです。課税所得 4000 万以上の富裕層に対して、45%の課税をする。無茶苦茶ですね。しかし終戦直後は 90%の富裕税をかけましたから、まだまだ足りないという所ではないかと思います。だんだん日本はそういう方向に進んでいます。歴史は繰り返し

ます。お金を沢山お持ちの方は、今のうちから手を打ってください。

今の日本の状況で一番怖いのは、安倍総理が登場したことによって、日本の環境がガラッと変わったことです。中にいるとあまり見えませんが、外国から見る日本、国内で仕事をしている人の立場…これほど変わっているかと思うほど変わっています。アベノミクスの 3 つの戦略、金融緩和・成長戦略・公共事業は、皆お金がベースです。カネ・カネ・カネの感覚での手を打っているわけです。これが一段落すると、次は精神的なものに入っていくでしょう。ですからアベノミクスが一段落した後に出て来る安倍政権が打つ精神的な手、これは要注意です。良く見ていないと、とんでもないもので跳ね返ってくる危険性があります。同時に、日本という国を素晴らしく良い方向に持っていく可能性も高い。ですから良くなるとすれば凄まじく良くなる。悪くなるとすれば凄まじく悪くなる。その狭間です。たまたま風貌が穏やかですから、そんな酷い事はしないだろうと思うけれども、国民の立場としてはよく見抜いておかないと、「民主党政権の打つ無様な手」どころではありません。急転直下変わります。その時に手を打ったのでは間に合わない。ですから今年は色々な事を考えて予防対策が必要です。

何か問題が起きた場合、実態に表れます。何か問題が起きた時に、日本の国が打つ手をよく見ておくと、はっと氣が付くものがあります

お時間になりました。本日はこれにて終了させて戴きます。